

お茶の水女大家政。都築佳代

日本音楽学校保母 長津美代子

目的 農業労働者と主婦という二重の役割を担う女性の意識と生活構造を明らかにする。

方法 1.対象者 静岡県志太郡岡部町朝比奈地域の30~59歳の全有配偶女性475名のうち、不能票・拒否票36を除く439名。事例調査29名 2.調査時期 昭和57年7月11~13日8月29~31日 3.調査方法 訪問面接聴取法 4.集計・分析方法 東大大型計算機センターSPSSによる単純集計・クロス集計・検定、PPSSによる多変量解析(数量化理論I・II類)

結果 1.対象者の基本的属性 ①岡部町とその周辺市出身者が9割弱であり、夫についてはほぼ100%である。②学歴は全般に低い。③職業は、農家が8割、非農家が2割であり、農家のうち6割が専業である。④世帯構成は核家族が26.2%。4分の3は拡大家族世帯である。⑤調査世帯の56.3%に65歳以上の老人が同居している。2.生活構造 ①職業に就いている者は91%で、一家の重要な働き手となっているが、生計中心者は大部分が夫である。②農業従事者の場合、一年を通して一日10時間前後も働いており、農外就業者より労働時間が長い。③家事時間は農業従事者の方が短い。④農作業の軽減、嫁不足、結婚形態の違いなどにより、昔あった嫁姑関係の苦悩は現在ではそれほどでもない。3.農家の将来 ①「後継者」と「後継者の嫁」のことを不安に思う者が多い。反面、労働の厳しさを理由に娘を農家に嫁がせたくない親も多く、嫁不足は深刻である。②農業だけではやっていけないと考える人が多く、今後は兼業農家が主流になると思われる。しかし、長男に家を継がせ、長男と同居を希望する者が多く、直系家族は将来も維持されると考えられる。